

# 二年生 国語

## 文法③

～一年生の復習～

準備するもの

- 文法ノート（学校で使っているテキスト）
- ワーク（一年生で使ったもの）
- ノート（できれば文法用と授業用分けたほうがあとで見やすいですが一緒でもいいです。）

## 文法③

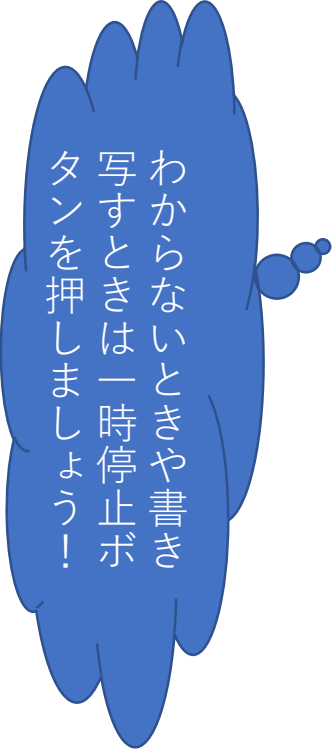
～一年生の復習～

文法については、三年間かけて学習していきますので、積み重ねが大切です。

練習問題をたくさん解きながら、理解していってください。

では、学習をはじめていきます。

最後のページにノート用のスライドがあるので、ノートに書き写しましょう。今回は復習ですので、一度授業で書いていると思いますが、もう一度書きましょう。



わからないときや書き写すときは一時停止ボタンを押しましょう！

文法 〽一年生の復習〽

★文の組み立て(二)

〽連文節〽

文の成分を五種類

答えてください。

- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| ( | ④ | ) | ( | ① | ) |
| ( |   | ) | ( |   | ) |
| ( | ⑤ | ) | ( | ② | ) |
| ( |   | ) | ( |   | ) |
|   |   |   | ( | ③ | ) |
|   |   |   | ( |   | ) |

もう、覚えましたね？

文の成分とは・文を組み立てるうえでの文節の働きのこと。

(主語) (述語) (修飾語)  
(接続後) (独立語)

の五種類でしたね。

前回に続いて、もう少し、文節どうしの関わり合いを見ていきたいと思います。

主語・述語の関係

主語

兄が 本を 読む。

述語

前回の復習ですが、「読む」という述語に対して「誰が」を表わす「兄が」が主語でした。二つの文節の関係を主語・述語の関係といたしましたね。

では、次のような場合はどうでしょう。

兄と姉が本を読む。

手順通りにいけば、まずは「読む」が述語なのは変わりないですね。

述語

兄と 姉が 本を 読む。



では、主語はどれでしょう。

本を読んでいるのは、

「兄」ですか？「姉」ですか？

主部

兄と 姉が 本を 読む。

述語

そうです。「兄」も「姉」も本を読んでいます。  
ということは、どちらの文節も主語の働きをしています。

このように、連続した二つ以上の文節がひとまとまりになって、文の成分の働きをするものを、**連文節**といいます。  
この文では、「兄と」「姉が」の二文節で**主部**となります。

連文節でできた文の成分は、

**主部・述部・修飾部接続部・独立部**

となります。

呼び方が変わるので、注意しましょう。

もう一つ注目してほしいところがあります。

兄と姉が

主語

本を

読む。

述語

主語・述語の関係

「兄と姉が」（主語）と「読む」（述語）の文節どうしの関係は、主語・述語の関係ですが、「兄と」と「姉が」の二つの文節どうしの関わり合いをみていきましょう。この二つの文節にも「関係」があります。

突然ですが、「兄」と「姉」の語順を入れかえてみてください。

並立の関係

姉と兄が 本を 読む。

となります。

「兄」と「姉」の語順を入れかえても文の意味は変わりません。

このように、入れかえても意味が変わらない二つの対等な文節どうしの関係を並立の関係と言います。



このように並立の関係にある文節は、いつもまとまりで連文節となります。

「主部」以外も確認してみましよう。

弟が 笑って いる。

述語



今までどおりの手順で文の成分を確認すると、「いる」が述語で、「弟が」が主語とということになります。この文は「弟が」そこに「いる」ことを示している文でしょうか。

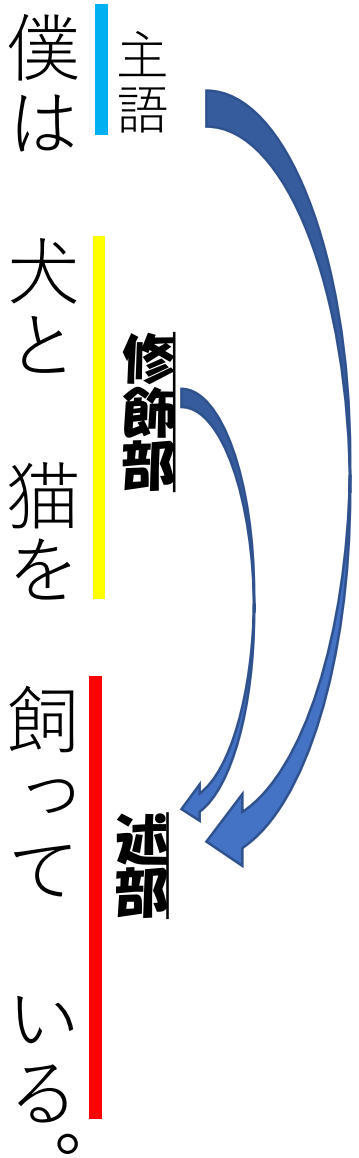
違いますね。「弟が」「笑っている」ことを示す文です。つまり「笑って」と「いる」の二つの文節が連なって述語の働きをしており、**述部**となります。

弟が 笑って いる。

主語

述部

次の文はどうでしょう。

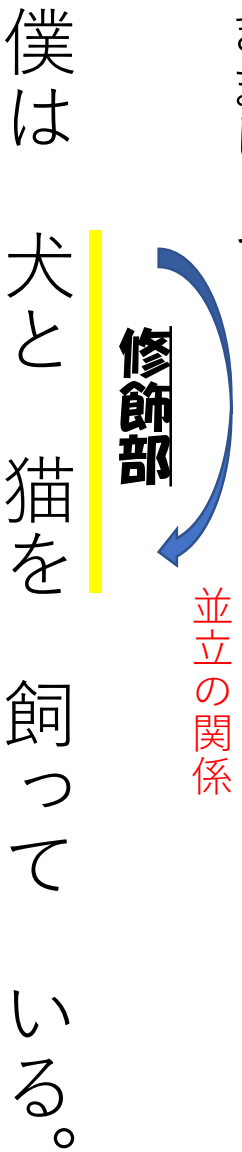


先ほどと同じようにいくと、まずは「飼って」「いる」が連文節で述部になることがわかりますね。当然「僕は」が主語になります。

では、「僕」が飼っているのは犬でしょうか猫でしょうか。

両方飼っていますね。ということで、「犬と」「猫を」の二文節が連文節で、修飾語の働きをするので、**修飾部**となります。

ここでも、連文節になる文節どうしの関係を見てくださいませよう。



まずは、「犬と」「猫を」の修飾部ですが、先ほどと同じように、順番を入れかえてみましょう。「猫と 犬が」という語順にしても意味は変わりません。

よってこの文節どうしの関係は、**並立の関係**となります。



次に、述部の「飼っている」を見てみましょう。  
先ほどの説明にもありましたが、この「いる」は本来の意味のそこに「居る」という意味ではなく、すぐ上の「飼って」という文節を補助しています。

僕は 犬と 猫を 飼っている。



このように、本来の意味が薄れ、下の文節が上の文節の意味を補うとき、この二つの関係を**補助の関係**といいます。

弟が 笑っている。



先ほどの「笑っている」も同じですね。

この 薬は 苦くない。



この場合も、「ない」は薬が「無い」のではなく、すぐ上の文節の「苦く」という言葉に対して働いています。

このように**補助の関係**にある文節は、いつも一まとまりで連文節となります。



**並立の関係や補助の関係**があるところは、必ず連文節となることが理解できたでしょうか。

次のような場合も連文節になります。

大きな家が建つ。

修飾語 | 主語 | 述語

前回、修飾語の説明で、この文を扱いました。文節ごとに細かく見ると右のようになりますが、**文全体を見ると、この文にも連文節が含まれていることがわかります。**

「建つ」という述語に対して、「家が」という文節が主語に当たりますが、「大きな家」で一つのものを表わしているので、文全体でとらえると、「大きな家が」の二文節で、**主部**とするのが自然です。

修飾語  
(連体修飾語) + 主語  
(被修飾語)

大きな家が建つ。

修飾・被修飾の関係

主部

大きな家が建つ。

述語

連文節の最後の文節の働きが優先されるので、「修飾語」が含まれていますが「修飾部」にならずに、「**主部**」になります。

よって、連体修飾語と被修飾語の関係は連文節となります。



ここまでのまとめ

- 並立の関係・補助の関係にあたる部分
  - 連体修飾語と被修飾語の関係にあたる部分
- については連文節になることがわかります。

最後に、接続部・独立部について確認しておきましょう。

### 接続部

ひどい 雨なので、体育祭は 延期だ。

「ひどい」「雨なので」の二文節で、体育祭が延期になった理由を示しているので、連文節で**接続部**となります。

### 独立部

一流の プロ野球選手、それが僕の夢だ。

「一流の」「プロ野球選手」の二文節で、僕の夢の内容が強調されており、独立語の提示にあたります。連文節になりますので、**独立部**となります。

以上で連文節の説明を終わります。



確認！

- ・連続した二つ以上の文節がひとまとまりになって、文の成分の働きをするものを、**連文節**といいます。
- ・文節どうしの関係に注目すると見つけやすいです。

少し複雑な感じがしましたか？

まずは文の成分を十分に理解してから連文節の学習をするとうわかりやすいです。しつこいようですが、問題を解きながら理解を深めていきましょう。

文法のテキストや国語のワークを利用してここまでの学習を身につけましょう。

文法ノート P 24 ～ P 27

ノート用

文法③ 一年生の復習

★文の組み立て(二)  
〜連文節〜

連文節

兄と 姉が 本を 読む。

主部

述語

このように、連続した二つ以上の文節がひとまとまりになって、文の成分の働きをするものを、**連文節**という。  
この文では、「兄と」「姉が」の二文節で**主部**となる。  
※連文節でできた文の成分は、**主部・述部・修飾部・接続部・独立部**となる。

☆連文節の文節どうしの関係

並立の関係

兄と 姉が 本を 読む。



姉と 兄が 本を 読む。

このように、入れかえても意味が変わらない二つの対等な文節どうしの関係を**並立の関係**と言います。

補助の関係

僕は 犬と 猫を 飼って いる。

述部

この「いる」は本来の意味のそこに「居る」という意味ではなく、すぐ上の「飼って」という文節を補助している。

このように、本来の意味が薄れ、下の文節が上の文節の意味を補うとき、この二つの関係を**補助の関係**という。

※**並立の関係**や**補助の関係**があるとところは、必ず連文節となる。

書き写しておきましょう！

修飾語  
(連体修飾語) + 主語  
大きな家が建つ。  
(被修飾語) 述語

主部 ← 述語  
大きな家が建つ。

「建つ」という述語に対して、「家が」という文節が主語に当たるが、「大きな家」で一つのもを表わすため、文全体でとらえると、「大きな家が」の二文節で、**主部**となる。

※よって、連体修飾語と被修飾語の関係も連文節となります。

☆接続部・独立部

### 接続部

ひどい 雨なので、体育祭は 延期だ。

「ひどい」「雨なので」の二文節で、体育祭が延期になった理由を示しているため、連文節で**接続部**となる。

### 独立部

一流の プロ野球選手、それが僕の夢だ。

「一流の」「プロ野球選手」の二文節で、僕の夢の内容が強調されており、独立語の提示にあたるため**独立部**となる。